

日本農業労災学会 Newsletter

第17号(No.17) 2023年9月1日発行

●発行：日本農業労災学会事務局

〒184-0004 東京都小金井市本町1丁目8番14号

サンリープ小金井305

麒麟社会保険労務士事務所内

電話番号 042-316-6420/FAX 042-316-6430

E-mail : kuroda@kirin-office.com

ホームページ : <http://jfapr.jp/>

会員各位

日本農業労災学会

会 長

北田紀久雄

第10回大会実行委員長 半杭 真一

2023年度(第10回)日本農業労災学会主催 学会設立10周年記念大会シンポジウムの開催について

平素より学会活動につきましては、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、下記の通り第10回大会シンポジウムを開催いたしますのでご案内申し上げます。本年度は2014年4月の学会設立以来10年目となりますので、学会設立10周年記念大会シンポジウムとして開催いたします。

3年以上にわたり社会や経済に深刻な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染も本年5月に5類への移行措置が取られ、ようやく以前の日常生活に戻りつつあります。こうした状況を踏まえ、本年度はより多くの会員にこの記念大会に参加していただきたく、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式での開催することにいたしました。

つきましては、本大会シンポジウムに是非とも多くの会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

記

I 日本農業労災学会設立10周年記念(第10回)大会シンポジウムの概要

1. 開催日時：2023年10月20日(金) 10:00~16:35(記念祝賀交流会を除く)

2. 会 場：ハイブリッド開催

(東京農業大学世田谷キャンパス 横井講堂+Zoomによるオンライン)

※記念交流祝賀会はレストラン「すずしろ」を予定。

3. プログラム概要：

10:00～11:00 個別報告

11:00～12:00 第3回学会賞表彰式

13:00～13:25 開会式（ビデオメッセージを含む）

13:25～14:45 第I部 シンポジウム 記念講演（4名）

15:00～16:35 第II部 パネルディスカッション（パネリスト6名）

17:00～18:30 記念祝賀交流会

4. 主催団体：日本農業労災学会・東京農業大学総研研究会3研究部会

（労災対策研究部会・就農者推進教育研究部会・農業協同組合研究部会）

5. 後援団体：JA全国組織、JA単協等

6. シンポジウムの統一テーマ『新たな農業労災学の展望と農作業事故の根絶を目指して』

7. 第I部 記念講演

講演1 農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの方向

日本農業労災学会 前会長 門間 敏幸（東京農業大学名誉教授）

講演2 利用者にやさしい農業機械開発の現状と今後

日本農業労災学会 副会長 田島 淳（東京農業大学教授）

講演3 農業者の命を守る法制度・労災補償の課題と今後の展開方向

日本農業労災学会 理事 中村 雅和（いのしし社会保険労務士事務所所長）

講演4 JAグループの農業労災の安全対策と労災補償対策の取り組みの実態・課題と今後の展開方向

日本農業労災学会 副会長 宮永 均（JAはだの代表理事組合長）

8. 第II部 パネルディスカッション

・テーマ『農作業事故の根絶を目指して－自助・共助・公助の連携を創る』

・司会進行：緒方 大造（日本農業新聞論説委員）、半杭 真一（東京農業大学准教授）

アドバイザー：白石 正彦（東京農業大学名誉教授）

・参加予定パネリスト6名 ※氏名等は決定次第、学会HPでお知らせいたします。

農業者代表（自助）、JA代表（自助・共助＝協助）、農林水産省農産局（公助）

日本農村医学会（共助・公助）、社労士代表（共助）、農機メーカー代表（共助）

9. 詳細は下記の開催要領をご参照ください。

II 大会への参加申し込み・参加費などの支払い方法

1. 参加費等

（1）大会参加費：2,000円（対面・オンライン共通）

ただし、対面参加の場合には資料代を含む（開催当日配布します）。

（2）不参加のため資料送付を希望の場合の資料代：1,500円（送料込）

（3）記念祝賀交流会費：3,500円

2. 参加申し込み方法

（1）申し込み先と申し込み期限

1) 大会シンポジウム参加等の申し込み

大会シンポジウムへの参加をご希望の方は、9月25日(月)必着で同封の大会参加申込書の該当欄に○印をご記入の上、学会事務局(1ページ扉参照)までFAXまたはメールでお送りください。

(お願い) 大会参加申込書にメールアドレスの記入がない場合、オンライン参加等に必要な情報メールの送信ができませんので、必ずご記入ください。また、大会不参加で大会資料の送付を希望する場合、資料は申込書に記載された住所に郵送させていただきますので、ご了承ください。

2) 個別報告の申し込み

個別報告は対面でもオンラインでも可能です。学会設立10周年記念大会として、会員の皆様の積極的な報告を期待しております。

ご希望の方は、大会参加申込書の個別報告希望欄に該当事項を記入してください。さらに、別途、個別報告要旨を作成のうえ、9月25日(月)必着で、学会事務局(1ページ扉参照)並びに下記の半杭真一大会実行委員長宛(E-mail: sh206187@nodai.ac.jp)とcc:で北田紀久雄宛(E-mail kitada@nodai.ac.jp)にお申し込みください。個別報告要旨は、A4判1ページにMS-Wordで作成し、1行目に報告題目、2行目に報告者名(所属)、1行空けて4行目から報告内容を1000字程度で記載してください。

個別研究報告の発表時間は15分、質疑応答が10分を予定しています。ただし、報告数の関係で時間を短縮する場合がありますので、ご了承ください。

(2) 大会参加費等の送金

大会参加費等は、同封のゆうちょ銀行払込取扱票の該当欄に○印を付け、10月6日(金)までに振込みをお願いいたします。

3. 開催までの主なプロセス

(1) 大会参加申込み並びに大会参加費等の入金確認後、10月10日(火)頃より、参加者にメールでZoom接続のためのURLや報告要旨のダウンロード情報等をご案内いたします。各自ダウンロードしてご利用ください。ただし、対面参加者には大会当日受付にて報告要旨集を配布いたします。

(2) シンポジウムに参加できない方で報告要旨集を希望する場合には、大会参加申込書にその旨ご回答をいただくと共に、(報告要旨集)資料代として1,500円を10月6日(金)までご送金ください。大会終了後、10月23日(月)以降に郵送させていただきます。

III 大会事務局、問合せ先

本シンポジウムについての問合せは、下記までお願いいたします。

●大会実行委員長 東京農業大学国際食料情報学部アグリビジネス学科 准教授 半杭 真一

TEL 03-5477-2771 E-mail sh206187@nodai.ac.jp

●学会長 北田紀久雄 TEL 090-4957-2039 E-mail kitada@nodai.ac.jp

●学会事務局 1ページの扉参照

以上

日本農業労災学会設立10周年記念シンポジウム開催要領

記念シンポジウム統一テーマ

『新たな農業労災学の展望と農作業事故の根絶を目指して』

<10周年記念シンポジウムの開催趣旨>

2014年4月に設立された日本農業労災学会は、「農業が全産業の中で最も危険な業種に陥りつつある」という危機感に立ち、事故防止のためには抽象的な理論やパフォーマンスに陥ることなく、「事故ゼロを目指すリスクアセスメント手法の機能の発揮」を産学官の連携で実学主義に基づいて推進することを目指すという目的の元に活動をスタートした。

スタート後の学会活動の中心は、毎年のシンポジウムの開催による農業労災学の体系化と農作業事故予防ノウハウ・労災補償対策の確立に置き、①農作業事故実態と予防対策の解明、②リスクマネジメントモデルの開発方法やリスクアセスメントの実践的な運用方法の解明、③労災補償対策の課題の明確化、④労災予防の組織的マネジメントと補償システムの解明、⑤自助・共助・公助連携による事故防止、⑥事故防止の新たな技術開発とGAPを活用した農業労働安全の組織的・戦略的展開、⑦JAと社労士との連携による事故防止・補償対策の展開、といったテーマで問題解明に取り組んできた。

また、農業者の高齢化の急速な進展と農業従事者の減少と農作業の孤立化、さらには農業機械の大型化により死亡などの重大事故発生のリスクが高まり「農業はますます危険産業化」している。こうした状況を憂いた我々は、2021年6月3日に緊急声明「農業者の命の非常事態」「農作業事故の撲滅ー死亡事故ゼロを目指してー」を発出し、次の5つの提言を行った。

- ① 事故抑止の農機具開発と単位JA主軸の「農作業防止への戦略的目標と工程表」の策定
- ② 都道府県域と各地域段階での農作業安全推進協議会の設置とその機能発揮への財政支援
- ③ 事故情報を一元化して解析・フィードバックに資するための体制づくり
- ④ 事故に対する補償充実と労災保険特別加入促進等に資する労災保険制度の改正
- ⑤ 農作業安全対策から労災補償までを体系的にカバーする法制度の整備と予算の拡充

学会設立10周年を迎えた今、以上の5つの提言の実現に学会の総力を上げて取り組むことを決意するとともに、大会シンポジウム『新たな農業労災学の展望と農作業事故の根絶を目指して』を開催することとした。このシンポジウム開催の趣旨は、日本農業労災学会設立後の10年間の活動の総括に基づき、農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの方向を明らかにするとともに、本会が「農作業事故の根絶を目指して」活動する関連する関係各組織のプラットフォームになることを強く各方面に発信することにある。

<開催日・開催方法・プログラム>

- ・開催日時：2023年10月20日（金） 10:00～16:35
(記念祝賀交流会 17:00～18:30)
- ・開催場所：東京農業大学 世田谷キャンパス 横井講堂
- ・開催方法：対面とOnlineのハイブリッド開催
- ・開催プログラム

- 10:00～11:00 個別報告
- 11:00～12:00 第3回学会賞表彰式
- 13:00～16:35 シンポジウム・パネルディスカッション
- 17:00～18:30 記念祝賀交流会

<シンポジウムの構成とねらい>

- ・会長あいさつ 13:00～13:05
- ・来賓あいさつ（東京農業大学長、関係機関代表からのビデオメッセージ） 13:05～13:20
- ・記念講演についての座長解題（座長：北田会長） 13:20～13:25

第I部 記念講演（13:25～14:45）

目的：記念講演では、日本農業労災学会の10年間の活動の総括を行うとともに、今後の本会の活動方向について、それぞれの専門領域から提言をいただく。そのため、以下の4つの講演を企画した。講演1では、門間前会長による「農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの方向」である。本講演では、日本農業労災学会10年の活動の中に流れているパラダイムと方法論を総括的に評価するとともに、農業労災学の新たなパラダイムと方法論構築の方向を提案する。講演2では、田島副会長による「利用者にやさしい農業機械開発の現状と今後」である。本講演では、農業労働者の安全を守る農業機械の開発の現状と今後の開発方向を整理するとともに、高齢者、女性等、多様な特性を有する農業者が求めるユーザーフレンドリーで安全な農業機械の姿を提案する。講演3では、中村理事による「農業者の命を守る法制度・労災補償の課題と今後の展開方向」である。本講演では、事故を未然に防止するための法制度の整備と、万が一事故が発生してしまった場合の補償制度の課題と今後の展開方向について社労士の立場から提案する。講演4では宮永副会長による「JAグループの農業労災の安全対策と労災補償対策の取り組みの実態・課題と今後の展開方向」である。これまで本学会誌に掲載されたJAグループによる農業労災の安全対策と労災補償対策の展開と課題に関する報告を総括するとともに、JA、市、農業委員会、JAが連携して推進しているJAはだの先進的なチャレンジを紹介して、JAグループによる活用可能性について提案する。

- 講演1 農業労災学の新たなパラダイムと方法論開発のイノベーションの方向** 13:25～13:45
日本農業労災学会 前会長 門間 敏幸（東京農業大学名誉教授）
- 講演2 利用者にやさしい農業機械開発の現状と今後** 13:45～14:05
日本農業労災学会 副会長 田島 淳（東京農業大学教授）
- 講演3 農業者の命を守る法制度・労災補償の課題と今後の展開方向** 14:05～14:25
日本農業労災学会 理事 中村 雅和（いのしし社会保険労務士事務所所長）

講演4 JAグループの農業労災の安全対策と労災補償対策の取り組みの実態・課題と

今後の展開方向

14:25～14:45

日本農業労災学会 副会長 宮永 均 (JAはだの代表理事組合長)

休憩と会場設営 14:45～15:00

第II部 パネルディスカッション (15:00～16:35)

テーマ「農作業事故の根絶を目指して—自助・共助・公助の連携を創る」

目的：阪神大震災・東日本大震災の記憶は、いまだに我々の脳裏に鮮明に焼きついている。こうした未曾有の災害の局面でその重要性が認識されたのが自助・共助・公助の連携による災害への対応である。農作業事故は、決して自己責任として処理されるべきものではなく、自助・共助・公助が連携してその防止に取り組むとともに、不幸にして発生してしまった場合には連携して補償対策に当たらなければならない災害である。

第II部のパネルディスカッションでは、農業労働災害の防止・補償対策の現場で活動されている方々に取り組みの内容とその思いを語っていただくとともに、今後の自助・共助・公助の連携の方向性ならびに日本農業労災学会が果たすべきプラットフォーム機能について提言をいただく。

司会進行：緒方 大造 (日本農業新聞論説委員)、半杭 真一 (東京農業大学准教授)

アドバイザー：白石 正彦 (東京農業大学名誉教授)

参加予定パネリスト (6名)

農業者代表 (自助)、JA代表 (自助・共助=協助)、農林水産省農産局 (公助)

日本農村医学会 (共助・公助)、社労士代表 (共助)、農機メーカー代表 (共助)

パネルディスカッションの進め方

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ① 座長団・パネラー紹介とパネルディスカッションの目的説明 | 15:00～15:05 |
| ② パネラーによる話題提供：一人5分程度 | 15:05～15:35 |
| ③ パネルディスカッションの実施 | 15:35～16:15 |
| ④ 参加者とパネラーとの意見交換 | 16:15～16:30 |
| ⑤ 座長総括 | 16:30～16:35 |

閉会

16:35

記念祝賀交流会

17:00～18:30

日本農業労災学会設立10周年記念大会シンポジウム
参加申込書 (正会員用)

送付日：2023年 月 日

会員番号

(案内封筒に記載があります)

申込先：FAX⇒ 042-316-6430、E-mail⇒ kuroda@kirin-office.com

※該当欄に○印や必要事項を記入して9月25日(月)必着でお送りください。

○ を 記 入		大会シンポジウムに対面参加 (大会参加費 2,000円)
		大会シンポジウムにオンライン参加 (大会参加費 2,000円)
		記念祝賀交流会に参加 (交流会費 3,500円)
		不参加のため資料送付を希望 (送料込み資料代 1,500円)
会員 氏名	フリガナ	
	漢字	
連絡先：所属		
連絡先：住所		〒
連絡先：電話		
連絡先：FAX		
連絡先：E-mail:		
個別 報告	番号に○	1. しない 2. 対面報告 3. オンライン報告
	題目	
通信欄		

*この参加申込書で参加等の申し込みをされた方は、同封されている「郵便払込取扱票」の該当欄に○を付け、必要事項をご記入の上、10月6日(金)までに振込みをお願いいたします。

*この申込書に記載されたメールアドレスに開催案内などの情報メールが送信(資料申込をされた方は記載された住所に郵送)されますので、記入漏れのないようにお願いいたします。